

## 2014 年度後期 授業評価アンケート結果に対するコメント

### —全学共通教育—

共通教育運営委員長 杉 本 義 行

全学共通教育科目の後期開講科目のうち 217 科目についてアンケートが実施され、延べ 5,589 名の学部生のみなさんからご協力をいただきました。この場を借りて、お礼申し上げます。また、アンケートの実施に対しての貴重な授業時間を割いてご協力いただいた先生方にも深く感謝いたします。

実施状況ですが、実施対象科目 238 科目のうち、実施必須の 164 科目に対して 160 科目についてアンケートが実施され実施率は 97.6%でした。これに加えて、演習科目や受講者 10 名未満の実施が任意な科目についても 74 科目のうち 57 科目が実施されました。

ここでは、全学共通教育全体の集計結果へのコメントを行いますが、すでに周知のように個別科目の集計結果は自由記述欄のコメントを含めて Campus Square から自由に閲覧することが可能です。おおいに利用していただきたいと思います。

さて、授業の満足度を示す「総合評価」の平均は、5 段階評価で 4.29（昨年度 4.25）と大学全体の平均値 4.30 とほぼ同水準でした。各項目別に「総合評価」との相関をみると、「この授業のレベルはあなたにとって適切であった」が一番高く 0.68 であり、ついで「教員は教室内が学習にふさわしい状態に保たれるように心掛けた」0.66、「教員は授業時間を有効に利用した」ならびに「教員は発言・議論等授業参加を積極的に促した」0.65、さらに「この分野の関心と学力が得られた」0.64 が続いています。

ここ数年、分野の関心と学力が総合評価と高い相関をもっていたのですが、本年度は他の 4 学部でも「発言・議論等の授業参加を促した」という項目が第 1 位になっているのは興味深い点です。いわゆる教員と学生の双方向でのコミュニケーションをはかるアクティブラーニング型の授業の満足度が高いことを示唆しているものと思われます。ただ、全学共通教育科目では、この「発言等を促した」という項目のスコアが 3 点台と低く改善が望まれます。

今後とも授業評価を注視しつつ、授業の一層の質向上につとめたいと考えます。